

# 英語コミュニケーションⅠ

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
必修	2	6	8	筆記試験
教科書		学習書・副教材等		
COMET English Communication I		COMET 基本文法定着ドリル1		
<b>学習目標</b>				
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。				
<b>学習内容</b>				
Get Ready : be動詞、一般動詞、否定文、疑問文 / Lesson1 過去形 経験を英語で述べる。 Lesson2 進行形 好きなことを英語で述べる。 / Lesson3 助動詞 日本の文化を英語で紹介する。 Lesson4 不定詞・動名詞 身の回りのピクトグラムを英語で紹介する。 / Lesson5 動名詞 職業を英語で紹介する。 Lesson6 that節 好きな店やよく行く店を英語で紹介する。 / Lesson7 現在完了形 自分の学校を英語で紹介する。 Lesson8 受け身 テクノロジーについて英語で述べる。 / Lesson9 比較 食品廃棄を減らす取組みを英語で述べる。 Lesson10 関係代名詞 地域のために自分なら何ができるかを英語で述べる。				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
「読む・聞く・話す・聞く」の4技能の向上を目標に身近な題材を用いて学習する。各レッスンは授業1時間ごとに配当し、文法解説やコミュニケーション活動を行い、プリントなどを用いながら内容読解を行う。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>		
実際に英語を用いた言語活動を通して、言語材料、言語活動とを効果的に関連付け実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現ができるよう指導する。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
<b>担当者より</b>				
教科書や副読本をしっかりと読みながらレポート作成に取り組み、基本的な文法や表現を学びましょう。				

# 英語コミュニケーションII

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	4	前期 6 後期 6	前期 8 後期 8	筆記試験
<b>教科書</b>		<b>学習書・副教材等</b>		
COMET English Communication II		COMET 基本文法定着ドリル 2		
<b>学習目標</b>				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を身に付ける。				
<b>学習内容</b>				
Lesson1: Places Worth Visiting「want+人+to 不定詞」/ Lesson2: Iwago Mitsuki「疑問詞+to+不定詞」 Lesson3: The Haka「分詞」/ Lesson4: Digital Detox「if節・疑問詞節」 Lesson5: Goal Setting「seem」/ Lesson6: The High School Hair Salon「助動詞+have+過去分詞」 Lesson7: You Can Make a Difference「過去完了形」/ Lesson8「関係代名詞what」 Lesson9: The Father of Braille Blocks「関係副詞」/ Lesson10: Do We Need That?「使役動詞」 Lesson11: The Vancouver Asahi「知覚動詞」/ Lesson12: From Small Companies to the World「仮定法」				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
英語コミュニケーション I で学習したことを基礎として、「読む・聞く・書く・話す」の4技能向上を図る。1時間で1レッスン進め、プリント等の補助教材も使用する。短いフレーズから段階を追って進める。既出の内容の復習も交えることで理解しやすいように配慮する。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>		
既習の文法知識と新しく学習する発展的な文法内容を理解し、やや複雑な英文の読解にも取り組むことができる。また、実際場面におけるコミュニケーション技能を身に付ける。	英語の文法知識や表現方法を身に付け、状況に応じて情報や考えを整理し、適切な英語で表現できる。	文章を読む中で日本での生活と海外の生活との違いを知り、自国の文化を客観的に見ることができる。また、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。		
<b>担当者より</b>				
教科書と副教材をしっかりと確認しながらレポート課題に取り組み、基本的な文法や表現を学びましょう。				

# 論理・表現 I

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	2	6	8	筆記試験
教科書		学習書・副教材等		
Amity English Logic and Expression I		Amity English Logic and Expression I ワークブック		
<b>学習目標</b>				
言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やりとり]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を目指す。				
<b>学習内容</b>				
Lesson1: 現在形「自己紹介をしよう」 / Lesson2: 過去形「昨日何をした？」 / Lesson3: 進行形「今、何してる？」 Lesson4: 未来表現「花粉症ってつらい？」 / Lesson5: 助動詞①「手伝ってくれる？」 Lesson6: 助動詞②「浅草寺に行こう」 / Lesson7: 現在完了形①「漢字を学ぶ秘けつ」 Lesson8: 現在完了形②「秋葉原ってすごい！」 / Lesson9: 受動態「お手製のパン」 Lesson10: 比較①「ギネスに挑戦」 / Lesson11: 比較②「大きなお弁当」 / Lesson12: 動名詞「アイドル最高！」 Lesson13: to不定詞①「備えあれば・・・」 / Lesson14: to不定詞②「何に使うもの？」 / Lesson15: 分詞「あの子是谁？」 Lesson16: 関係代名詞①「工場見学に行こう」 / Lesson17: 関係代名詞②「あの日の思い出」 Lesson18: 関係副詞「おすすめの旅行先」 / Lesson19: 仮定法過去「もしも私が・・・」 Lesson20: 接続詞「お出かけするなら？」				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
基本的な文法、語句や表現を学び、日常的な話題についてディベートやディスカッション、英文作成を通して自分の考えや意見を相手に伝える能力を伸ばす。1時間に1レッスン行い、プリント等の補助教材を用いて授業を進める。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>		
実際に英語を用いた言語活動を通して、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。ただし、語や文法事項については、話すこと[やり取り]と発表]、書くことの三つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り扱う。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、要点や意図などを明確にしなが、話したり書いたりして情報や考えを表現し、伝える能力を身に付ける。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
<b>担当者より</b>				
教科書や副読本をしっかりと読みながらレポート作成に取り組み、基本的な文法や表現を学びましょう。				

# 総合英語演習

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	4	前期 6 後期 6	前期 8 後期 8	筆記試験
<b>教科書</b>		<b>学習書・副教材等</b>		
数研出版 「チャート式アースライズ総合英語」		教科書に付属する「問題解答編」、「4技能連携ハンドブック」、「暗唱例文集」		
<b>学習目標</b>				
既習の基礎的な文法事項を定着・発展させ、受験に対応した総合的な学力を身につけることをめざす。また、英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために必要な基本的なコミュニケーション能力を伸ばし、社会生活においても活用できる資質・能力を身につける。				
<b>学習内容</b>				
Unit2 動詞と時の表し方①(現在形・過去形・進行形、自動詞と他動詞等) / Unit3 動詞と時の表し方②(完了形) Unit4 助動詞(勧誘・提案・願望などを表す表現、慣用表現など) / Unit5 (受動態) / Unit6・7・8 (不定詞・動名詞・分詞) Unit9 関係詞(関係代名詞・関係副詞・注意すべき関係詞等) / Unit10 比較(形容詞・副詞の原級・比較級・最上級) Unit11 仮定法(仮定法過去・仮定法過去完了) / Unit12 話法(時制の一致、話法【平叙文・疑問文・命令文の場合】など) Unit13 否定 / Unit14～22 さまざまな表現(接続詞・前置詞・名詞・冠詞・代名詞・形容詞・副詞など)				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
授業では、毎時間、教科書「チャート式アースライズ総合英語」を使用し、基本的な文法事項を復習しながら、大学受験等に対応した総合的な英語力が身につくよう授業を進めます。原則的に、上記のUnit順に授業を進めますが、Unit14～22については、必要に応じて、適宜、取りあげます。課題として指定されたレポートはすべて提出することが必須です。なお、解答については別冊付録の「問題解答編」に記載されているので参考にしてください。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上のスクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべてのレポートが60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験を総合的に評価された結果、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>		
上記「学習内容」に記載した基本的な文法事項を理解している。実際の社会でも役立つコミュニケーション技能を身につけている。	基本的な英語表現を用いて、自らの要求・思考・判断を、目的や場面・状況に応じて、適切な英語で表現できる。	基本的な文法を活用し、実際の社会生活の場面で、自ら主体的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。		
<b>担当者より</b>				
教科書と副教材をしっかりと確認しながらレポート課題に取り組み、基本的な文法や表現を学びましょう。				

# 英語能力演習

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	2	4	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
なし		「実用英語技能検定(英検)」3級予想問題ドリル		
<b>学習目標</b>				
語彙・文法・読解力・作文力を総合的に学習しながら、「実用英語技能検定(英検)」3級の合格を目指す。また、学習を通して身近な英語を理解し、コミュニケーションを図る資質や能力を身に付ける。				
<b>学習内容</b>				
《筆記問題》 1. 短文の語句空所補充 / 2. 会話文の空所補充 / 3. 長文の内容一致選択 / 4. 英作文 《リスニング問題》 1. 会話の応答文選択 / 2. 会話の内容一致選択 / 3. 文の内容一致選択				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
「聞く・読む・話す・書く」の4技能の向上を目標に身近な題材を用いて学習する。各レッスンは授業1時間ごとに配当し、文法解説やコミュニケーション活動を行い、プリントなどを用いながら内容読解を行う。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③「実用英語技能検定(英検)」3級以上を受験すること。 ④各授業ごとの小テスト及び平常点の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①②③のみ満たした場合は履修のみ認定する。 【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>		<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	
英検3級合格に必要な語彙や文法を理解し、外国語の4技能(聞く・読む・話す・書く)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付ける。	具体的な場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝えあったりできる。		検定にチャレンジする前向きな姿勢で客観的に自分の英語力を把握し、英語力を更に高める。また、言語やその背景にある文化に対する関心を持ち、コミュニケーションを図ろうとしている。	
<b>担当者より</b>				
副読本をしっかりと読みながらレポート作成しよう。また、多くの問題に取り組み、「実用英語技能検定(英検)」3級に合格できるよう取り組もう。				

# 完成英語特講

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	6	前期 12	前期 24	筆記試験
<b>教科書</b>		<b>学習書・副教材等</b>		
オリジナルテキスト		共通テスト、入試問題過去問集		
<b>学習目標</b>				
基礎的な文法事項を定着・発展させ、受験に対応した総合的な学力を身につけることを目指す。オリジナルテキストで基本的な文法事項を確認し、問題演習を通じて理解させ定着を図る。テキストの学習後は、共通テストや私立大学の入試問題過去問を解くことで実践的な力を身につける。				
<b>学習内容</b>				
第2章 文の組み立て 第3章 時制① 第4章 時制②ー完了形 第5章 助動詞 第6章 動詞の態 第7章 不定詞 第8章 動名詞 第9章 分詞 第10章 比較 第11章 関係詞 第12章 仮定法 第13章 話法 第14章 否定 第15章 強調・倒置・省略 第16章 無生物主語 第17章 接続詞 第18章 前置詞 第19章 疑問詞 第20章 名詞 第21章 冠詞 第22章 代名詞 第23章 形容詞 第24章 副詞				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
授業では、毎時間、オリジナルテキストを使用し、基本的な文法事項を復習しながら、大学受験等に対応した総合的な英語力が身につくよう授業を進める。原則的に上記の順に授業を進めるが、第16章～第24章については、適宜取り上げる。課題として指定されたレポートはすべて提出することが必須です。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上のスクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべてのレポートが60点以上の評価を受けること。 ③平常点及び単位認定試験を総合的に評価された結果、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>		
上記「学習内容」に記載した基本的な文法事項を使って、英文を正確に読解している。	相手の発信した情報を理解し、基本的な英語を用いて、自らの要求・思考・判断を、目的や場面・状況に応じて、適切に表現できる。	相手の発信した情報を理解し、基本的な文法を活用し、自ら主体的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。		
<b>担当者より</b>				
まずオリジナルテキストをしっかりと理解・確認しながら問題演習に取り組み、その後入試過去問で実践力を磨きましょう。				

# 異文化理解

京都長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択科目	2	4	8	なし
<b>教科書</b>		<b>学習書・副教材等</b>		
なし		指導者作成プリント課題		
<b>学習目標</b>				
英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための態度や能力の基礎を養う。				
<b>学習内容</b>				
「自己紹介をしよう」「他国の文化について知ろう」「英語でオーダーを取ろう」「英語で道案内をしよう」、「英語で自分の体調を伝えよう」「日本の文化や習慣を英語で伝えよう」				
<b>授業の進め方、課題・提出物など</b>				
海外語学スクーリング参加者、Eクラス受講生が、海外語学研修に向けて、外国の文化や基礎英語を学習する。				
<b>評価基準と評価方法</b>				
<p>【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。</p> <p>①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。</p> <p>②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。</p> <p>③平常点及び授業内のテスト結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。</p> <p>※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。</p> <p>【平常点について】</p> <p>レポートの点数、授業態度、出席状況などを総合的に評価したものを平常点とする。</p>				
<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>		<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	
使われている言葉の意味や働きなどを理解している。正しい語順や語法などの知識を身に付けている。	自分の考えや情報などを、英語で伝えることができる。		海外の国々や地域の異なる文化に興味を持ち、言語活動に積極的に取り組んでいる。	
<b>担当者より</b>				
海外語学研修に参加したときに、積極的に英語でコミュニケーションが取れるよう、実際の使用場面を想像して活動に取り組みましょう。				